

ファミリーニュース

2月号

編集発行 カトリック一宮教会事務局広報委員会
〒491-0044 一宮市大宮1-7-1
TEL (0586) 73-4884
FAX (0586) 59-5884
ホームページ版

2023

四旬節と灰の水曜日について

主任司祭 太田 実

2023年度『教会暦と聖書朗読』には四旬節の意義について次のように書かれています。

● 四旬節

四旬節は、復活の祭儀を準備するために設けられている。四旬節の典礼によって、洗礼志願者はキリスト教入信の諸段階を通して、また、信者はすでに受けた洗礼の記念と償いのわざを通して、過越の神秘の祭儀に備えるのである（「典礼暦年と典礼暦に関する一般原則」27）。

四旬節は、灰の水曜日に始まり、主の晩餐の夕べのミサの前まで続く。四旬節の初めから復活徹夜祭の前まで「アレルヤ」は唱えない（同28参照）。そのためミサの福音朗読の前にはアレルヤ唱にかわって詠唱を歌う。また、「教会の祈り」でも四旬節中はすべての「アレルヤ」を控える。

四旬節の初めにあたる灰の水曜日は、どこでも断食の日とされ、その日に灰の式が行われる（同29）。灰の式はミサなしで行うこともできる。その場合は、灰の水曜日のミサの「ことばの典礼」を用いることが望ましい。式は共同祈願で結ぶ（『ミサ典礼書』107ページ参照）。

四旬節の主日は、四旬節第1、第2、第3、第4、第5主日と呼ぶ。聖週間の始まる第6の主日は、「受難の主日（枝の主日）」という（「典礼暦年と典礼暦に関する一般原則」30）。

聖週間は、救い主キリストのエルサレム入城に始まる受難の追憶に向けられている。聖週間の木曜日の朝、司教は、その司祭団と共同司式ミサを行って油を祝福し、香油を聖別する（同31）。この日の午前中に集まるのが難しい場合、復活祭より前の他の日に行うことができる。その場合、復活祭に近い日を選ぶ（「四旬節・聖なる過越の三日間・復活節の典礼に関する補足事項」11）。聖別された香油と祝福された油を受け取る式を小教区で行うことができる（同13～15ページ参照）。

キリスト教最大の祭日は復活祭です。四旬節第1主日には洗礼志願式が行われます。四旬節のあいだ洗礼志願者の清めと照らしのための典礼が行われます。復活徹夜祭では洗礼

式が行われます。それと同時にすでに洗礼を受けた信者たちは悔い改めとつぐのいのわざにより、神に心を向け、洗礼の決意を新たにします。

四旬節は灰の水曜日から始まります。信者たちは、悔い改めのしるしとして昨年の四旬節の「受難の主日(枝の主日)」にイエスのエルサレム入城を祝うために手に持った枝を焼いて作った灰を額に受けます。

一宮教会では、昨年灰の式を四旬節第一日曜日に行いました。今年も灰の準備をする時期になりましたが、2017年度第2回臨時司教総会(2017年12月14日開催)で承認された「四旬節・聖なる過越の三日間・復活節の典礼に関する補足事項」によれば、「灰の水曜日のミサと灰の式について」次のように規定されています。

3. ミサのあわれみの賛歌は、状況に応じて省くことができる。
4. 灰の祝福と灰をかける式は、通常、ミサの中で行われるが、ミサ以外のときに行うこともできる。その場合、灰の水曜日のミサの入祭唱、集会祈願、聖書朗読を用いてことばの典礼の形式で行われる。聖書朗読の後に説教と灰の式が続き、共同祈願、会衆への祝福と派遣で式を結ぶ。
5. 灰の式は、キリスト者が復活祭を迎えるために回心の歩み始めることを四旬節の最初の日に示す式である。そのため、灰の水曜日以外の日に行うことは典礼上、勧められない。

この件について、名古屋教区長松浦悟郎司教様とも相談した結果、カトリック一宮教会では、灰をかける式は、灰の水曜日のミサの中でだけ行うことを確認しました。

カトリック一宮教会の灰の水曜日のミサは2月22日午前10時からとなっています。皆さんの参加をお待ちします。

今年は復活徹夜祭で一名の方が洗礼をお受けになります。四旬節を洗礼志願者と共に回心と悔い改めの気持ちを新たにしてお過ごし参りましょう。



典礼委員会よりお知らせ

2月22日(水)灰の水曜日のミサは午前10時です。ミサの中で灰の式を行うのはこの日だけです。
また、この日は大齋小齋を守る日です。



準備のため事前に昨年の枝を回収します。
聖堂後ろのテーブルの下に回収箱を置きますので、2月12日(日)までにご持参下さい。

2023年2月のミサの意向 (1月25日までの申し込み分)

印刷版に掲載しています。
教会入口のスタンドにあります

世界病者の日

2023.2.11

教皇ヨハネ・パウロ二世は、1984年2月11日(ルルドの聖母の記念日)に使徒的書簡『サルヴィフィチ・ドロリスー—苦しみのキリスト教的意味—』を発表し、翌年2月11日には教皇庁医療使徒職評議会を開設しました。さらに1993年からはこの日を「世界病者の日」と定め、毎年メッセージを発表しています。

病者がふさわしい援助を受けられるように、また苦しんでいる人が自らの苦しみの意味を受け止めていくための必要な助けを得られるように、カトリック医療関係者だけでなく、広く社会一般に訴えていかなければなりません。医療使徒職組織の設立、ボランティア活動の支援、医療関係者の倫理的霊的養成、病者や苦しんでいる人への宗教的な助けなども重要な課題です。

カトリック中央協議会ホームページより引用 <https://www.cbcj.catholic.jp/calendar/kiganbi/>